

安全

安全に関する方針・考え方

クルマが広く普及したことで私たちの暮らしは大きく変わり、多くの人々がモビリティによる自由や利便性、そして運転する楽しさを享受してきました。一方で、世界保健機関(WHO: World Health Organization)が発行したGlobal status report on road safety 2023によると、世界全体で交通事故によって年間約119万人の方が命を落としています。これは世界全体での死亡原因のうち、12番目に多い原因となっています。日産は“走る楽しさと豊かさ”を体現するクルマづくりに取り組むとともに、リアルワールド(現実の世の中)における高い安全性を提供します。

日産は日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」の目標に向け、安全に関する取り組みを進めています。

安全に関するマネジメント

日産はリアルワールドで発生した事故の分析結果をもとに、衝突時の安全性能よりも事故そのものを減らすことが「ゼロ・フェイタリティ」の達成に向けて最も効果的であると考えており、“ぶつからないクルマ”の実現を目指しています。さらに、クルマの技術開発のみならず、アカデミアと立ち上げたバーチャル研究所「交通安全未来創造ラボ」などを通じて、交通安全啓発活動を実施しています。

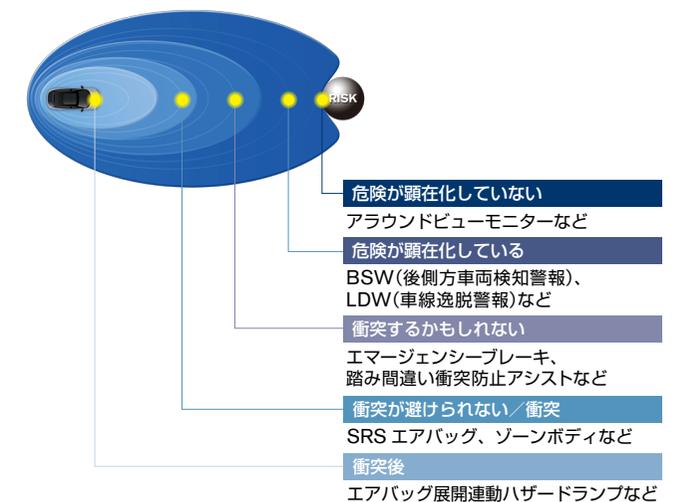
安全に関する取り組み

“ぶつからないクルマ”の実現に向けて

日産の安全技術開発は、危険が顕在化していない状態から衝突後に至るまでのそれぞれの状態で発生する危険要因に対し、最適な支援をクルマが行うことにより乗員の安全をサポートする「セーフティ・シールド」というコンセプトのもとに行っています。その中でも、衝突回避をサポートする運転支援技術は事故そのものを減らすために有効であり、新しい技術の開発と採用の促進に取り組んでいます。

日産は、安全技術を広く迅速に普及させていくことも自動車メーカーとしての使命だと考えています。

セーフティ・シールドコンセプト*1



*1 個々の技術についての詳細はこちらをご参照ください。日産の安全への取り組み https://www.nissan-global.com/JP/INNOVATION/TECHNOLOGY/ARCHIVE/SAFETY_TDC/

日産の安全技術の拡充と獲得した外部評価*1

全世界に広がりを見せる情報公開試験（NCAP：New Car Assessment Program）は、その評価項目を日頃の安全運転サポートから、危険回避支援、衝突安全、事故後に至るまでに広げ、車両トータルでの安全性能を評価する傾向にあります。日産は「セーフティ・シールド」コンセプトに基づき、衝突安全技術だけでなく、「インテリジェントエマージェンシーブレーキ」や「車線逸脱防止支援システム」、「踏み間違い衝突防止アシスト」など、全方位をカバーする「360°セーフティアシスト」による危険回避支援技術や、事故後に緊急車両の手配をサポートする「SOSコール」を積極的に採用、各地域で行われている情報公開試験において、高い安全性能評価を獲得しています。また、自動車工業会や自動車技術会などの業界活動にも積極参加し、車両安全対策活動や戦略的標準化活動を推進し、さまざまな安全技術の「性能評価試験法」の国際基準や国際標準（ISO）の作成にも貢献しています。近年、戦略的標準化活動は市場の創出や競争優位性の確保などの側面においても重要性が高まっており、これらの標準化活動を通じて国際標準に適合した技術を提供することにより、健全なグローバル市場の発展を支え、社会課題を解決するイノベーションを実現していきます。

高度運転支援技術「プロパイロット」

高度運転支援技術「プロパイロット」は高速道路などの一定の条件下で、加速、ブレーキ、ステアリング操作などを支援し、運転者の負担を軽減するシステムです。この技術は2016年より製品化し、現在は軽自動車からプレミアムSUVまで幅広い車種に搭載されています。2019年には高速道路で同一車線内ハンズオフが可能なナビ連動ルート走行ができる「プロパイロット 2.0」へと進化しました。ストレス・疲労を軽減し安心して使える技術として、世界中のお客さまから高い評価をいただいています。また、Euro NCAPの先進運転支援評価においても、高い評価を獲得しています。

次世代プロパイロット

日産は、安心して使える自動運転の実現を目指しています。次世代プロパイロットでは、エンボディドAIを搭載し一般道や敷地内の走行が可能なドア・ツー・ドアの運転支援を実現する開発を進めています。この技術をお客さまが安心して使えるようにするためには、複雑な状況下で起こる事故を回避するための運転支援技術が必要であると考えています。そのため、クルマの緊急回避性能の飛躍的な向上につながる空間認知車両制御技術、グラウンド・トゥルース・パーセプション（Ground truth perception）を開発しています。本技術は極めて判断が難しい複雑な状況において、周囲の情報を正

確に捉え、瞬時に判断し、危険を回避することを可能とします。本技術がドライバーを支援することにより、事故低減に大きく貢献すると考えています。日産は、この次世代プロパイロットを2027年度以降の新型車に採用する予定で、さらに安心かつ疲労の少ないドライビングを提供します。*2

交通安全啓発活動の推進

日産は交通安全活動「ハローセーフティキャンペーン」*3の一環として、交通事故発生件数が最も多くなる16～18時にヘッドライトの早期点灯をドライバーに促す「おもいやりライト運動」*4を2010年からリード。市民活動を活用した双方向のコミュニケーションによる安全啓発活動を推進しています。また、新潟大学の研究室と連携して、2018年に交通安全プロジェクト*5を立ち上げ、2020年3月には高齢ドライバーの安全走行を促進・啓発する「ハンドルぐるぐる体操」*6を開発しました。そして、2021年3月にネットワーク上に創設した、産学連携バーチャル研究所「交通安全未来創造ラボ」*7では、生活や移動に不安や不自由を抱えている一人ひとりに寄り添い、交通死亡事故ゼロの交通社会を実現することを目的として交通安全に取り組んでいます。北里大学、相模女子大学、新潟大学、桐蔭横浜大学などと協力し、随時研究や活動の成果を公表しているほか、2024年3月には日産の歴代名車と交通安全の研究内容を体感できるVRワールド「NISSAN Heritage Cars & Safe Driving Studio」*8を公開しました。

*1 主な外部安全評価結果（2024年度評価分）に関する詳細はこちらをご参照ください。 >>>P160

*2 詳細はプレスリリースをご参照ください。 <https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/250410-01-j>

*3 「ハローセーフティキャンペーン」に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOSAFETY/>

*4 「おもいやりライト運動」に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.omoiyari-light.com/>

*5 交通安全プロジェクト トリトン・セーフティ・イニシアティブ-まち・生活・交通の安全な未来へ-ToLiTon(Town, Life and Transportation) Safety Initiative従来の交通安全の枠にとどまらず、「まち・生活・交通」を結び提案を目指すことから命名したプロジェクトです。

*6 高齢者交通安全「ハンドルぐるぐる体操」に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOSAFETY/TAISOU/>

*7 「交通安全未来創造ラボ」に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOSAFETY/LAB/>

*8 「NISSAN Heritage Cars & Safe Driving Studio」に関する詳細はこちらの社会実装機能をご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOSAFETY/LAB/ACTIVITY/>

また、2024年11月には、日産を協力団体とする新潟大学のハンドルぐるぐる体操への取り組みが、「第13回健康寿命をのぼそう!アワード」スポーツ庁長官賞を受賞しました。

「おもいやりライト運動」



毎年11月10日「いい点灯の日」周辺で、全国点灯呼びかけアクションを実施。今年は「点灯ありがとう活動」と命名し、北海道から鹿児島まで19地域の賛同者が参加しました。また今年は、全国の賛同者との交流会をハンドルぐるぐる体操イベントとあわせて12月に開催しました。各地から、点灯呼びかけアクション方法の工夫などをシェアし励ましあうことで、新たな気づきが生まれる時間となりました。



主体的に点灯呼びかけアクションを全国で実施

日産グローバル本社ギャラリーでは、年間を通して、日産PRスペシャリストより「おもいやりライト運動」のプレゼンテーションを毎日夕暮れ時に実施しています。

こうした活動を通じて、「おもいやりライト運動」は市民の間に着実に浸透しています。



おもいやりライト運動・ハンドルぐるぐる体操 全国の賛同者との交流会

「交通安全未来創造ラボ」

本ラボでは、多様な取り組みを行っている中、社会問題となっている高齢ドライバーの交通事故削減を優先課題として取り組んでいます。今年は運転に必要な筋力・柔軟性・バランス力を向上させ、主として高齢ドライバーの安全走行を支援する「ハンドルぐるぐる体操」を広げる施策として、「ハンドルぐるぐる体操 友達の輪ひろげよう」と銘打ったハンドルの全国バトンリレーを開催しました。



各地の「ハンドルぐるぐる体操 友達の輪ひろげよう」

また、VRワールド「NISSAN Heritage Cars & Safe Driving Studio」に、横断歩道の大切さを学ぶ新コンテンツを加え公開しました。

これからも交通事故削減に向けてさまざまな取り組みを行っていきます。



VR横断歩道ありとなしで渡った場合の気づきやすさ体験